

Ⅲ 主要品目別の振興方向の展開

1 野菜

ニンジン



現状と課題

- 津堅ニンジンとは、本市のブランド農産物のひとつとして津堅島で生産されており、農産物自体はもとより、加工品としても広く市場に流通しています。津堅島で生産されるニンジンは、津堅島の土壌・農地でしか出せない味や品質であり、本市のオリジナル農産物となっています。
- しかし、津堅島の農地では、慢性的な水不足に陥っており、平成34年に完了予定のかんがい事業で水不足の解消が期待されますが、後継者不足や農業者の高齢化の進行によって、生産体制の維持が困難な状態にあります。また、加工品の製造では、市内に製造施設が無いことから一部の製造過程を県外で行うなど、加工品の製造体制も十分とは言えない状態にあります。



目指す方向

- 農業者の高齢化に対応して担い手の確保・育成とともに、機械化の推進によって作業の省力化を図り、生産性及び農家所得の向上を図るとともに、本市のブランド農産物の強化を推進します。
- また、かんがい事業の完了までの間の離農を食い止めるため、既存施設を活用した農業用水の確保・供給を実施するほか、補助事業の活用による農産物輸送への支援や、加工・製造体系の整備など、生産体制の強化を図ります。



将来の目標生産額

年度	平成27年度	目標	
		平成33年度	平成38年度
生産額	55百万円	79百万円	91百万円

注) 平成27年度の生産額は、農林水産省から公表されている平成27年度の類型別の生産額、農業振興地域整備計画の品目別生産量と単価からの生産額を踏まえて算出した。

注) 目標の生産額は、農業全体の伸びから算出した。(以下、全品目で同じ)

注) 金額は四捨五入している値である。(以下、全品目で同じ)

オクラ



現状と課題

- 夏期の露地野菜として勝連地区を中心に市全域で栽培されてきています。以前は勝連南風原地区を中心に、農業振興のひとつとしてオクラ麺の開発・加工製造に取り組まれていました。
- しかし、生産者の高齢化や台風等の自然災害の影響、土づくりの取り組み不足や栽培管理不足等により年々、栽培面積や生産量の減少を招いています。さらに、オクラ麺の加工にあたっては、製造施設の不足や、年間を通じたオクラの確保が困難なことから現在では製造していません。

目指す方向

- 現状の生産体制を維持しつつ担い手の確保・育成に取り組むとともに、早出しの推進や共選誘導による栽培面積の拡大、気象災害対応型平張施設の整備の推進による生産量の増加を図るほか、栽培技術の向上により反収の増加を図ることで、農家所得の向上を目指します。
- 農業者の加工品への意向によって6次産業化への取り組みに向けて製造体制の確立を図ります。



将来の目標生産額

年度	平成 27 年度	目標	
		平成 33 年度	平成 38 年度
生産額	39 百万円	56 百万円	65 百万円

注) 平成 27 年度の生産額は、農林水産省から公表されている平成 27 年度の類型別の生産額、農業振興地域整備計画の品目別生産量と単価からの生産額を踏まえて算出した。

インゲン



現状と課題

- 冬春期の主要品目として市全域で栽培されてきています。石川地区では、担い手によるインゲン栽培により販売額が向上しているほか、買い取り販売に取り組むことで、農家の安定的な所得の確保につながっています。
- しかし、生産者の高齢化や台風等の自然災害の影響、土づくりの取り組み不足や栽培管理不足等により年々、栽培面積や生産量の減少を招いています。

目指す方向

- 現状の生産体制を維持しつつ担い手の確保・育成に取り組み、補助事業の活用により面積拡大、栽培講習会や先進地視察研修会の開催による栽培技術の向上を図り、反収の増加を図ります。
- また、インゲンの後作としてゴーヤー等の輪作体系の確立や気象災害対応型平張施設の整備による生産量の増加により、農家所得の向上を図ります。



将来の目標生産額

年度	平成 27 年度	目標	
		平成 33 年度	平成 38 年度
生産額	46 百万円	66 百万円	76 百万円

注) 平成 27 年度の生産額は、農林水産省から公表されている平成 27 年度の類型別の生産額、農業振興地域整備計画の品目別生産量と単価からの生産額を踏まえて算出した。

2 果樹

マンゴー



現状と課題

- 市内の全域で生産していますが、台風や気温など気象条件や前年の着果過多等の影響により、年ごとに生産量の増減がみられます。施設を導入した地区では、栽培面積の増加により生産量の増加が見込まれています。また、定年退職者や高齢農業者の一部がマンゴー栽培に取り組むなど、マンゴー農家の増加がみられます。現在の市内のマンゴー農家には個選、個販が多く品質格差や品質のばらつきがあることから、出荷時の作業労力の軽減や農業所得の向上につながるマンゴーの高価格での取り引きが求められます。
- 一方、近年の台風や異常気象等の自然災害の影響により品質の低下が懸念され、安定した生産体制も十分に確立されていません。また、マンゴー栽培への新規就農者の就農にあたっては、マンゴーの生産まで2～3年間の時間を要することから、その間の就農者への経済的支援が求められます。



目指す方向

- 市内農業において高い生産性と販売実績のある農産物として、高温や台風等の自然条件や前年の着果過多等への対策の実施や、気象災害対応型施設や強化型パイプハウス等の整備の推進により、生産量の増加と高品質なマンゴーの安定的な生産体系を確立します。また、農業者と関係機関による定例会や栽培技術講習会を開催するとともに、先進事例地の施策を通じて栽培技術の向上とともに農家意識の向上を図ります。
- 今後の出荷にあたっては、出荷時の作業労力の軽減とともに、ブランド力を高め、農業所得の向上につながる高価格での取り引きを目指した共同選果・共同販売の実現に向けて市内に共同選荷場の整備を推進します。
- マンゴー栽培の担い手を確保・育成に取り組むとともに、所得確保の給付金等の紹介や農業研修として就農を支援するなどマンゴーを生産できるまでの期間の所得確保に向けた方策の展開を推進します。また、担い手農家をはじめ、拡大を希望する農家に対しては、未利用農地や離農家の農地を中心にあっせんすることにより、農業所得の向上とともに、耕作放棄地の発生防止を目指します。

将来の目標生産額

年度	平成 27 年度	年度	目標	
			平成 33 年度	平成 38 年度
生産額	41 百万円	生産額	59 百万円	68 百万円

注) 平成 27 年度の生産額は、農林水産省から公表されている平成 27 年度の類型別の生産額、農業振興地域整備計画の品目別生産量と単価からの生産額を踏まえて算出した。

あまSUN



現状と課題

○石川地区が発祥地のあまSUNは、出荷時期が12月に限定されることから県内でも希少性が高く、年末年始の贈答用商品として定着しています。

○しかし、あまSUNの生産者は高齢化が進行しており、後継者が不足しているため生産体制が脆弱で栽培面積も減少傾向にあります。

目指す方向

○栽培技術の向上により、安定生産とともに高品質なあまSUNの栽培に向けた生産体制の確立を推進します。

○また、農業者の高齢化が著しいことから、高齢農業者が離農する前に園地での栽培技術研修の実施体制を確立するとともに、あまSUNの希少価値の高さを市内外へ情報発信することで、あまSUNの生産に意欲を持った担い手を確保・育成を推進します。



将来の目標生産額

年度	平成 27 年度	→	目標	
			平成 33 年度	平成 38 年度
生産額	20 百万円		29 百万円	33 百万円

注) 平成 27 年度の生産額は、農林水産省から公表されている平成 27 年度の類型別の生産額、農業振興地域整備計画の品目別生産量と単価からの生産額を踏まえて算出した。

3 畜産



現状と課題

- 本市では、市内全域で繁殖牛の飼育を主に行われています。飼育農家は、勝連地区が70%以上の高齢化率となっている以外は40%以下であり、若い畜産農家が多く従事しています。また、現在の牛セリ価格は、全国的な素牛不足により高騰しています。
- 一方で、繁殖母牛の更新や導入では、雌子牛価格の高騰から苦慮しており、導入事業等の継続が望まれています。

目指す方向

- 繁殖牛では、母牛の優良系統への更新を促進するとともに、定例会や飼育技術講習会の開催を通じて子牛の適正な管理技術の習得を推進します。
- 今後、繁殖経営と合わせて、うるま市の新たなブランドの確立と所得向上による畜産農家の安定経営を目指し、肥育経営の推進に向けた検討を進めていきます。
- 本市の畜産業全体に通じることですが、家畜糞尿の処理及び堆肥化に向けた施設の整備と体制の構築、耕種農業と連携した採草地の整備と施設の集約化を推進します。

将来の目標生産額

年度	平成27年度	目標	
		平成33年度	平成38年度
生産額	700百万円	1,000百万円	1,160百万円

注) 平成27年度の実績は、農林水産省から公表されている類型別の生産額を採用した。

豚



現状と課題

○本市の養豚は、具志川地区や与那城地区を中心に営まれています。飼育農家には、モズク入りの特製飼料で飼育した豚を美ら海豚として販売するなど、積極的な取り組みが行われています。

○しかし、養豚場周辺の住民からは、悪臭等に対する苦情もみられるなど、営農環境の改善が求められています。また、勝連地区では平成 27 年の P E D（豚流行性下痢）の発生により取り引きが停止されており、家畜伝染病への対応策が求められています。

目指す方向

○P E D（豚流行性下痢）等の家畜伝染病への対策を徹底した安全・安心な豚の飼育・生産環境を確立し、取り引きが停止している勝連地区での飼育の再開により市全体での生産体制の構築を推進します。

○肥育農家を交えた飼育技術講習会の開催により、繁殖農家による肥育への取り組みを推進して高収益の確保とともに、強固な畜産農家の形成を目指します。

将来の目標生産額

年度	平成 27 年度	目標	
		平成 33 年度	平成 38 年度
生産額	410 百万円	590 百万円	680 百万円

注）平成 27 年度の生産額は、農林水産省から公表されている類型別の生産額を採用した。

4 花き

キク



現状と課題

- 市内では石川地区や具志川地区を中心に花き栽培が盛んに取り組まれており、その中でもキクは産地として積極的に生産されていますが、農業者の高齢化や担い手不足による生産体制の脆弱化がみられます。キクの栽培時には電照によって開花を調整しており、夜間の電照で彩られた風景が幻想的な雰囲気を醸し出しています。
- しかし、近年では台風や塩害等の自然災害による販売数量の減少が度々発生しており、災害防止への支援が求められます。また、震災以降は販売価格の低迷が続いたため、規模拡大などで経営改善に努めてきましたが、繁忙期の労力の確保が困難になってきています。
- さらに、今後、白熱電球の製造数の減少も見込まれています。こうした白熱電球からの移行に対する支援が求められます。
- キクは定期的に農薬散布が必要になるため農家負担も大きいことから、農家による農薬購入にかかる経費の軽減に向けた補助・支援が求められます。



目指す方向

- 農業者の高齢化に対応して強固な生産体制を確立するため、担い手の確保・育成を推進します。
- 台風等による自然災害に対応した気象災害対応型施設への更新を推進して高品質で安定的な生産体制の構築を推進します。また、現在の小ギクの栽培と合わせて輪ギクやスプレーギクの栽培の推進により農家所得の向上を目指します。
- 今後、栽培技術の向上と合わせて現在の白熱電球の製造数の減少への対応として照明のLED化を図ることによって、栽培コストの低減による農家所得の向上を目指します。

将来の目標生産額

年度	平成 27 年度	目標	
		平成 33 年度	平成 38 年度
生産額	525 百万円	750 百万円	870 百万円

注) 平成 27 年度の生産額は、農林水産省から公表されている平成 27 年度の類型別の生産額、農業振興地域整備計画の品目別生産量と単価からの生産額を踏まえて算出した。

洋ラン



現状と課題

- 本市の洋ランは県内初の拠点産地に認定されるなど、本市を代表する農産物の一つとなっていますが、農業者の高齢化や担い手不足により生産体制の脆弱化がみられます。また、本市の洋ランは多様な品種構成が特色である一方で、現在の新品種の導入先が海外であることから、新品種の導入に向けた支援が求められています。
- また、洋ランの生産は、初期投資が大きく、一旦は就農を志したものの初期投資が確保できずに断念した就農者もいることから、市や出荷団体等が事業主体となった生産団地や研修施設等の整備により就農支援が求められています。
- 一方で、洋ランを導入した当初と比較すると、上位階級や単位収量の低下により農家の所得が減少してきています。

目指す方向

- 農業者の高齢化に対応して強固な生産体制を確立するため、担い手の確保・育成を推進します。
- 栽培方法において、農業者に対して栽培技術講習会等の開催を通じて、肥培管理の改善を推進することで生産量の増加とともに上位等級比率を上げることにより、反収の増加による農家所得の向上を図ります。

将来の目標生産額

年度	平成 27 年度	目標	
		平成 33 年度	平成 38 年度
生産額	29 百万円	42 百万円	48 百万円

注) 平成 27 年度の生産額は、農林水産省から公表されている平成 27 年度の類型別の生産額、農業振興地域整備計画の品目別生産量と単価からの生産額を踏まえて算出した。

5 甘しょ

甘しょ



現状と課題

- 甘しょは、割った時の鮮やかな黄色から黄金イモとして知られており、現在では伊計島をはじめ津堅島でも栽培・生産されています。主に加工用の甘しょ栽培が中心となっています。
- しかし、近年ではイモゾウムシ等の病害虫の発生により津堅島では食用の甘しょを島内に持ち込めないなど生産の拡大に結び付いておらず、病害虫の根絶が急務となっています。

目指す方向

- 農業者の高齢化に対応するため、担い手の確保・育成を推進します。
- 伊計島や宮城島では、今後も甘しょの産地として、生産体制の強化を図り栽培を推進します。
- 津堅島では、ニンジンと合わせて甘しょの栽培も盛んに行われていますが、病害虫の発生で島内へのいもの持ち込みが禁止されている状態にあります。そのため、イモゾウムシ等の病害虫を根絶し、根絶後の食用甘しょの栽培を推進して生産拡大による農業所得の向上に取り組みます。
- また、加工用の甘しょについては、引き続き栽培を支援することで、加工品の開発・製造を推進するとともに、本市の特産品として拠点施設を中心に販売の展開を図ります。

将来の目標生産額

年度	平成 27 年度	目標	
		平成 33 年度	平成 38 年度
生産額	53 百万円	76 百万円	88 百万円

注) 平成 27 年度の生産額は、農林水産省から公表されている平成 27 年度の類型別の生産額、農業振興地域整備計画の品目別生産量と単価からの生産額を踏まえて算出した。

6 工芸作物

サトウキビ

現状と課題

- 本市では生産者が最も多い品目であり、市内の全域で盛んに栽培・生産されています。サトウキビの生産者の高齢化率は60%以上であり、高齢者が中心となった生産体制になっています。また、近年では安定した生産量と販売額になっています。
- しかし、今後の進行する高齢化に対応した担い手が十分に育成されていません。また、台風や干ばつ等の突発的な自然災害による生育障害や病虫害等の被害によって生産量の減少や栽培面積の減少に対応するため、技術力の向上による地力低下への対応が求められています。



目指す方向

- 多様な担い手の確保・育成に取り組むとともに、担い手を現在の農業者のもとでの農業研修を実施して生産体制の若返りを推進します。
- 農作業の機械化を推進することで、高齢者を中心とした現在の農業者の農作業の省力化とともに作業効率の向上を目指します。
- また、基盤整備の推進により農地の維持・確保に努め、関係機関との連携により耕作放棄地や遊休地の発生防止・解消を通じて産地の維持・拡大を推進します。
- さらに、栽培技術講習会等を通じて地域の実情に適した奨励品種を中心に優良種苗の普及、適期肥培管理の推進、病虫害対策の徹底により生産性及び高品質な農産物の生産を目指します。
- 現在のサトウキビに対する国庫補助を始めとした、サトウキビ農家への支援事業等を有効に活用し、さとうきび農家の所得向上を図るとともに安定経営の実現を目指します。



将来の目標生産額

年度	平成 27 年度	年度	目標	
			平成 33 年度	平成 38 年度
生産額	243 百万円	生産額	348 百万円	404 百万円

注) 平成 27 年度の生産額は、農林水産省から公表されている平成 27 年度の類型別の生産額、農業振興地域整備計画の品目別生産量と単価からの生産額を踏まえて算出した。



ビーグ（い草）

現状と課題

- 本市の特産品として具志川地区のほか、与那城地区照間一帯の土壌条件を生かし、環境に配慮した栽培が行われています。市内では畳へ加工するほか、最近ではビーグの高い栄養価に着目してパウダー状にすることで様々な加工食品に混ぜて食にも利用しています。
- また、ビーグ農地は、水田の少ない沖縄県において田んぼの生き物の生息地として豊かな自然環境を形成しています。
- しかし、近年では農業者が高齢化しており、栽培にかかる重労働から栽培を辞める農家も多く担い手不足になっています。また、農業者の減少からビーグの作付面積、生産量ともに減少しています。



目指す方向

- 平成 27 年度には、うるま市い草生産組合が環境保全型農業推進コンクールで農林水産大臣賞を受賞しており、環境と調和した農業が全国的にも評価されていることから、こうした全国での優位性を生かし、担い手の確保・育成を推進します。
- また、これまでも一括交付金（沖縄振興特別推進市町村交付金）を活用した機械の導入による機械化・省力化を図っており、高齢農業者でも継続的に営農できる環境づくりを目指します。
- さらに、衣・食・住、様々な商品に加工できるビーグの長所を生かし、うるま市い草生産組合を中心として6次産業化への取り組みを通じて農家所得の向上を目指します。



将来の目標生産額

年度	平成 27 年度	目標	
		平成 33 年度	平成 38 年度
生産額	61 百万円	87 百万円	101 百万円

注) 平成 27 年度の生産額は、平成 25～27 年度の栽培面積、販売価格、反収の平均から算出した。

7 グァバ

グァバ

現状と課題

- 市の特産奨励品に認定されており、JAおきなわ具志川支店グァバ生産部会を中心に栽培されています。低木栽培による軽作業であることから、高齢農業者も多く栽培に取り組んでいます。生産されたグァバの葉は、生産組合や農業法人によりバラ茶、ティーパック、ボトル茶に加工され、広く市場に出荷されています。
- しかし、現在の農業者の高齢化率は80%を超えており、高齢化が進行している一方、40歳代以下の若手農業者がいないことから産地の消失が懸念されます。



目指す方向

- 多様な担い手の確保・育成に取り組むとともに、担い手を現在の農業者のもとでの農業研修を実施して生産体制の若返りによる産地の維持・拡大を推進します。
- グァバは、健康に良く熱帯地域でしか栽培できないことから、沖縄県以外では希少性の高い農産物です。こうした希少性を活かした販路の開拓を図ります。
- 合わせて、現在の生産・製造体制への支援を通じて、グァバ茶を通じた6次産業化への取り組みを拡充することで農家所得の向上を図ります。

将来の目標生産額

年度	平成27年度	目標	
		平成33年度	平成38年度
生産額	3.9百万円	5.6百万円	6.5百万円

8 その他の農作物

主要品目として示した農産物に準ずる形で、現在も栽培されている以下の農産物について、今後も積極的な生産活動を支援していきます。

山城茶

現状と課題

○沖縄県内では唯一残っている在来種の緑茶で、市内でも石川地区のみの生産となっています。ビタミンが豊富で健康に良く、お茶以外にも様々な商品に加工されています。

○山城茶は、生産量が少なく希少価値が高い反面、担い手不足による生産規模が縮小され衰退の危機に瀕しています。

振興方向

✓今後は、貴重な茶を絶やさないよう生産・製造体制の強化に向けて、新たな担い手の確保・育成や製造環境の充実に向けて支援します。



山イモ

現状と課題

○石川地区を中心に生産されており、毎年12月には一株から取れる山イモの総重量を競い合う全沖縄やまいも勝負が市内で開催されます。

○山イモの出荷以外に、山イモを使用した商品も加工されており、今後、こうしたイベントや加工品を通じて産地化を図り、担い手の確保や生産量の拡大が期待できます。

振興方向

✓現在、取り組んでいるイベントを通じた地域への定着・ブランド化を図り、担い手の確保・育成による山イモの生産体制と加工品の製造体制の強化に向けて支援します。



葉タバコ

現状と課題

○伊計島や宮城島の島しょ部で生産しており、近年では作付面積の増減はあるものの安定した生産量を維持しています。

○しかし、社会風潮として禁煙傾向にあり今後は需要の減少が見込まれるほか、市内の生産地は台風等の自然災害により農作物被害を受けやすい立地であるため、市及び関係機関による対策・支援が求められます。



振興方向

✓災害に強い安定した生産環境の形成を推進するとともに、需要の減少に対して高品質な葉タバコの生産に向けて担い手の確保・育成等により体制づくりを支援します。

トルコギキョウ

現状と課題

○JAでは、トルコギキョウなどの洋花について重点地区を設けて生産拡大を図っています。市内では、トルコギキョウ生産重点地区として石川地区が指定されているほか、具志川地区でも積極的な栽培が見込まれています。(平成27年現在)

○今後は、トルコギキョウの栽培に向けた栽培施設の整備とともに、栽培講習会の開催等を通じて、生産者の増加による出荷率及び農業所得の向上につなげていく必要があります。



振興方向

✓トルコギキョウの産地化・ブランド化とともに花き農家の農業所得の向上に向けて、担い手の確保・育成等による栽培体制の構築と取り組む花き農家を支援します。

山羊



現状と課題

○沖縄県では、昔から山羊が家畜として飼養され、食肉や乳用として重宝されてきました。

本市でも近年になり与那城地区や与勝地区を中心に食肉用の山羊の飼育が行われており、飼育農家の増頭意欲も高いことから、今後、牛や豚と合わせて本市の主要な家畜に位置付けられていくことが予想されます。

○一方で、規模拡大に取り組もうとする飼養農家は、優良種の出回りが少ないことから優良種の導入に苦慮しています。

振興方向

- ✓山羊の改良増殖に向け、山羊の大型化や品質向上を図る目的に優良種の導入を推進し、飼育農家や飼育頭数の増加を推進します。
- ✓飼育技術講習会の開催や先進事例地の視察等を通じた繁殖農家による肥育への取り組みを推進することで、高収益の確保とともに、強固な畜産農家の形成を目指します。